

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置							
(1) 入学者の確保	① 種々の手段により、積極的な広報活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の対象とする地域、団体の範囲について有効性を検討し、広報活動の見直しを行う。 ・新入生アンケートにて入試広報資料の有効性を検証する。また、在校生による出身中学校訪問を実施しその効果を調べる。 ・本科3年生については1月のLHRで、4年生については3月の就職懇談会で学生および保護者に対して専攻科のPRを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度入試制度改定について、県下3市で中学校長、進路担当者向け説明会を実施した。(5月) ・平成25年度学生募集について、中学校の進路担当者を対象に鳥取県下3市、兵庫県豊岡市、岡山県新見市、広島県庄原市で説明会を実施した。(9、10月) ・新入生アンケートを実施して、パンフレットやオープンキャンパスが本校入学の動機付けになることを確認した。(4月) ・本科3年生に対する専攻科のPRは1月のLHRにて、4年生へのPRは3月の就職懇談会にて計画通り実施した。その他として専攻科・JABEEに関するH.P.の刷新・新設を9月に実施し、広く内外にPR出来るよう基盤を整備した。また、専攻科生の受賞・その他トピックスに関して校内学生、および教職員へ広報すべく専攻科生公報用掲示板を設置し適宜掲示に努めるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県は15歳人口が全国でもっとも少なく、入学志願者数の持続的確保が最重点課題である。 ・現状の入学志願者数を維持しつつ、入学者のレベルを維持・向上させることに重点を移すことが肝要である。 ・女子学生増の課題については、平成24年度にJST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」事業を実施した結果、物質工学科と建築学科は今年度入試で50%以上の女子学生が入学した。今後は機械・電気電子分野の理系女子学生増が課題である。 ・入試広報と学校広報との情報一元化・効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象とする地域や団体ごとに有効な広報戦略を立て、外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。 		教務部 専攻科 広報室
	② 入試説明会、オープンキャンパス等を充実させ、志願者確保に向けた取り組みを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏と秋の年2回、オープンキャンパスを行う。 ・入試説明会の他高専との共同開催について検討し、合意が得られた高専との共同開催を試行する。 ・女子中高生の理系進路選択支援事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のオープンキャンパスを実施した。参加者が約100名増加した。(8月、11月実施) ・中学校3校から訪問見学があった。(10月実施) ・鳥取県西部地区入試説明会を本校で実施した。(9月実施) ・他高専との合同フェスティバルを実施した。(6月実施) ・女子中高生の理系進路選択支援事業として、出身中学校での理系PR講演のため本校女子学生の派遣(6～11月実施)、秋のオープンキャンパスで女性高専卒業生の講演会および女子学生による学科紹介を実施した。(11月実施) 		<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のオープンキャンパスを開催し、参加者数と入学志願者数との関連性を調べる。 ・とくに機械・電気電子分野の理系女子を確保する方法について検討する。 		教務部
	③ 中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報一元化など広報の在り方も含め、各種広報戦略について運営会議にて検討する。 ・校外向けHPのリニューアルの検討を行い、その充実を図り、随時内容を更新する。 ・中学生向けパンフレットの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議において、広報の一元化など広報のあり方を検討した結果、広報全般についての活動を行う新たな組織としてH25年度から広報室を設置することとなった。(7月～1月実施済) ・専攻科および地域共同テクノセンターのHPを更新しJABEEに関する情報および地域連携活動の情報発信を積極的に行っている。(9月実施済) ・中学生向け高専パンフレットを一新して充実を図った。(5月実施) ・JABEEに関するH.P.の刷新・新設を9月に実施し、広く内外に情報発信出来るよう基盤を整備した。また、専攻科生の受賞・その他トピックスに関して校内学生、および教職員へ広報すべく専攻科生公報用掲示板を設置し適宜掲示に努めるようにした。 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度から校長の下に「広報室」を設け、情報の一元化を図るとともに、広報の一層の充実と業務の効率化を図る。 ・校外向けHPや広報資料の内容・在り方を見直し、統一的な広報戦略を立てる。 		広報室 教務部 専攻科
	④ アドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・前期中間、前期末、後期中間、学年末試験の成績について入学者の成績追跡調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力入試での面接検査を廃止して調査書を重視し、アドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行った。 ・前期中間・前期末試験について、入学者の成績追跡調査を行い資料とした。(各試験後に実施) 		<ul style="list-style-type: none"> ・入試選抜法改善後の入試倍率や入試成績の変化を調べ、入学後の成績追跡調査を行う。 		教務部

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、可能な限り本校を第一志望とする入学志願者を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習塾への情報提供の効果を検討した上で、校外への進学情報提供を行う。 ・県内外の広い地域を対象に中学校に対する学校説明会を行い、就職及び進学への強み、女子学生数や学科の特色などを強くPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習塾代表者を招き進学情報交換を実施した。(5～6月実施) ・各中学校で開催される高校説明会で本校の特色をPRした。(5～11月) 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中学校、中学校長会や県教育委員会並びに学習塾との連携をさらに深める。 			教務部
① 15歳人口の減少傾向や産業ニーズの動向など地域の実情に合わせて、学科再編の検討を進めるとともに、専攻科の整備・充実を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業・修了生向け及び企業向けアンケート調査の結果を踏まえ、今後の対応を検討する。 ・JABEE委員会を中心に、H26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについて、教育目標や専攻科カリキュラムの検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想検討委員会において国際性の涵養に関する検討を行い、従来卒業生・修了生および企業から高専生の英語力に対する要望を踏まえ、3年生におけるTOEIC全員受験を実施し英語力アップを図った。(1月実施済) ・モデルコアカリキュラム導入に対応するため平成23年度9月にモデルコアカリキュラム専門部会を設置して、以後5回会合を持って検討を進めてきた。現在までの確認事項は以下の2点である。 <ul style="list-style-type: none"> ① 現行カリキュラムとのマッチングでは、各学科、教養教育科とも大きな変更なしに導入できる。 ② アースサイエンス・ライフサイエンスは、現行科目“環境科学”に取り込んで、複数教員のオムニバス方式で対応する。 問題点として、モデルコアカリキュラム対応教科の到達目標のレベル設定と最終的な達成目標レベルの設定と評価をどのようにするのか検討を続ける。 ・昨年度の評議員会での外部有識者からの意見を踏まえ、JABEE委員会を中心に、平成26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについて、教育目標や専攻科カリキュラムの検討を行い、改善案を作成した。(4～2月実施済) 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラム対応教科の到達目標のレベル設定と最終的な達成目標レベルの設定と評価をどのようにするのか検討を続ける。 ・機械、電気情報、電子制御、物質、建築の各学科ともに出口面での問題はあまりない。また、地域産業界からの新しいニーズの芽生え(EV車開発企業やメガソーラ企業の進出等)はあるが、これに対しては従来の機械、電気・電子、物質系学科の教育内容の充実で対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムの導入を検討する。 ・専攻科複合システムデザイン工学プログラムの中間審査を受審する。 ・専攻科のカリキュラム改定を行い、専攻科生に技術者としての基礎素養を十分に習得させる。 			企画部 教務部 専攻科
② 産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科再編の検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業・修了生向け及び企業向けアンケート調査の結果を踏まえ、今後の対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想検討委員会において、今後の本校の教育研究活動全般に関する事項について、分科会方式で検討している。(11月実施済) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも英語教育の強化・改善をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、「中学校から入ることのできる高等教育機関」としての米子高専の魅力向上と教育の質の向上・高度化を進める。 			企画部 教務部 専攻科

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署	
(2) 教育課程の編成等	③ 入学時の基礎学力を把握するための試験を実施するほか、各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験を実施し、試験結果の分析を行う。また、英語については、検定試験等を積極的に活用して、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本科3年生に全国高専共通の学習到達度試験を実施し、試験結果に関する情報を科目・学科で共有し、到達度向上策を検討する。 ・本科学生に対し、TOEIC受験を義務付けるための検討を行う。また、専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、専攻科生の英語力について把握する。 ・1～3年生に英単語コンテストを実施し語彙力の増強を図る。 ・本校数学科で作成した3年生対象の復習問題集を改訂する。 ・編・転入学生に対する学習支援として、入学予定者への事前指導と入学後の学習支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・入学時の基礎学力を把握するための試験や学習到達度試験を実施し結果の分析を行う。 ・学習到達度試験対策として数学教室で作成した復習用問題集を改訂し授業で使用する。 ・英語教育の強化・改善を図る。 ・3年生におけるTOEIC全員受験を実施するとともに、チームティーチング授業やすでに導入したCALL教室の積極的活用等を通して語学教育の充実を図る。 ・恒常的に1～3年生で英単語コンテストを実施し、語彙力の増強を図る。 ・クラウド上で学習できるコンテンツ(学習到達度試験対策用など)の活用を促進する。 			教務部 専攻科 キャリア支援室 教養教育科	
	④ 卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本科、専攻科とも在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページに公開するとともに活用方法を試行する。 ・授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、ノウハウを共有するため教員や技術職員などを対象としたFD研修会を企画する。 ・学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を前後期2回実施した。(6～12月実施済) ・在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページにて公開した。(2月実施) ・優れた教育実践例によるFD研修会は、適当な研修時期が確保できなかったが、次年度に向け引き続き実施を検討する。 ・学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページに公開した。(1月実施) ・本科とともに専攻科でも7月～8月上旬に前期授業アンケートを実施した。なお、この結果は既に校内H. P. に公開されている。さらに12月に後期授業アンケートも実施した。結果は現在集計中である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生を含めた学生による授業評価・学校評価の結果を検討し、教育環境の充実を図る。 			企画部 教務部 専攻科
	⑤ スポーツ系、文科系クラブなどの全国的な各種競技会等やロボットコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ系、文科系クラブなどの全国的な各種競技会等やロボットコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた戦績等をHPに即時掲載した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きスポーツ系、文科系クラブなどの全国的な各種競技会等やロボットコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。 			学生部

米子工業高等専門学校 第2期中期計画		平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
	⑥ ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動を奨励する。	・ホームルームの時間を利用し、雪害を受けた松林の清掃・草刈・植林にボランティアとして取り組む。	・キャンパススクリーンデー(9月)と、HRを利用し清掃活動を行った。 ・2年生ホームルームの時間を利用し(5月～11月に5回)、雪害を受けた松林の清掃・草刈・植林にボランティアとして取り組んだ。 また学生会(5月)、教職員(9月)も同活動に取り組んだ。		・鳥取県主催の白砂青松アダプトプログラムに学生・教職員がボランティアとして継続参加し、雪害を受けた弓ヶ浜海岸の松林の再生事業に取り組む。 ・環日本海の問題を考える国際交流活動(鳥取県海岸の漂流ゴミ拾いなど)に参加する(韓国南ソウル大学との交流活動)			国際交流 学生部
③ 優れた教	① 多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。	多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。	・教員の学位を調査し、調査結果に基づき学校要覧に掲載した。(7月実施済) ・4人の教員募集に当たって、募集要項の応募資格に学位や教育経験などの教育力に関する資格を盛り込んだ。(6～2月実施済)	・山陰地方は人口が少なく、また高等教育機関の数が少ないため、常勤、非常勤ともに優れた教員の確保は容易ではない。 ・山陰地方では、男性、女性を問わず応募者数自体が少なく、優れた教員の確保に苦労しているが、引き続き女性教員の増加に取り組む。	・近隣の高校・大学や研究機関及び自治体諸機関と不断の連携協力を図る。			運営会議
	② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、可能な範囲で人事交流制度を活用する。	・各学科・科目に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼し、受入・派遣計画を策定する。	・各学科・科目に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼し、各学科・科目から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定した。その結果、H25年度に教員1名の派遣と2名の受入が決定した。(10月実施済)		・教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、可能な範囲で高専・両技科大間教員交流制度を活用する。			運営会議
	③ 専門科目及び一般科目理系については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。	専門科目及び一般科目理系については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。	・教員の学位を調査し、調査結果に基づき学校要覧に掲載した。(7月実施済) ・4人の教員募集に当たって、募集要項の応募資格に学位や教育経験などの教育力に関する資格を盛り込んだ。(6～2月実施済)		・学校独自で優れた教員を育てるためのシステムの構築を図る。			運営会議
	④ 女性教員の比率向上を図る。	・各学科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載する。	・一般科目(数学)、電気情報工学科、電子制御工学科、建築学科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集していること記載した。(6～1月実施済) ・平成24年4月に一般科目物理に女性教員を採用した。 ・女子更衣室等の不具合部分の改修を行っている。		・各学科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載する。 ・女性教職員が利用する施設・設備の点検を行い、整備計画を策定する。また、女性教員の働きやすい環境の整備に努める。			運営会議

米子工業高等専門学校 第2期中期計画		平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
員 の 確 保	⑤ ファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、本校以外で実施される研修等に派遣する。	・教育研究水準向上および教育改善のためのFD研修会を開催し、アンケート調査などにより研修の効果を検証する。	・採用3年以内の若手教員の授業力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を前期後期各1回実施した。(6～1月実施済) ・採用3年以内の若手教員の居室として合同教員室を配置した。 ・新任教員に対するビジネスマナー講座を実施した。(9月) ・採用3年以内の教員を対象に本年度の教育研究活動の関するフォローアップ懇談会を実施した。 ・本校の産業界支援団体である米子高専振興協力会と協力して、地元企業見学会を教職員に対し実施した。(9月、3月) ・特別支援教育関係および学生相談室関係のFD研修会を教職員に対し実施した。(9月)		・採用3年以内の新任教員に対する本校独自の研修プログラム(ビジネスマナー講習会等)を作成し、実施する。 ・採用3年以内の新任教員とベテラン教員による双方向授業参観(授業研究)を実施し、新任教員の教育力向上を図る。 ・新規採用教員教育制度と校務分掌との整合性を検討する。			運営会議
	⑥ 教育活動や生活指導の活性化を奨励する。	・機構主催の教員顕彰を実施し、結果を踏まえ運営会議で校長表彰の人選を行う。	・教育研究活動および学生指導において優れた成果を上げた教員に対し教育研究活性化経費を配分した。(6月実施済) ・機構主催の教員顕彰を実施した結果、機構に推薦する該当者はいなかった。(11月実施済) ・在校生へ前期分の授業評価アンケートを実施した。(7月) ・学生による教員顕彰を実施した。(10月)		・機構主催の教員顕彰を積極的に活用する。 ・授業評価アンケートおよび課外活動など教員の教育活動や生活指導の取組結果について調査し、評価基準に基づき評価して教育研究活性化経費の配分を決定する。			運営会議
	⑦ 各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。	各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進するとともにホームページ等で公表する。	・校内HPを使って国内外の大学等での研究・研修に関する情報を随時知らせた。 ・教員の国内外の大学等での研修報告については校内HPを使って公表した。一方、国際学会の参加報告をホームページ等への公表には至らなかった。		・昨年度に交流協定を締結した韓国ソウル大学との教職員の国際交流プログラムを検討・実施する。			運営会議 国際交流
	① 教育の質の向上へ向けた教材や教育方法の開発及び、創造的・実践的技術者の育成を目的としたエンジニアリングデザイン教育を推進する。	・時間割・カリキュラムの検討を行い自学自習を推進する。専攻科生による低学年学習支援及び教員による編入生学習支援を実施する。 ・外部資金や「企業技術者等活用プログラム」を有効に活用し、教育方法の改善や教材開発を推進する。	・コアカリと絡めてカリキュラムの検討を行った。(4、5月) ・県人材育成事業と連携して企業人を活用した教育プログラムを実施した。(7～12月) ・専攻科生TAIによる低学年学習支援を実施した。(6、8、12、2月実施) ・担任、教科担当と連絡を取り合い編入生の学習状況を聞き、必要に応じて学習支援を行った。(適宜)。 ・授業参観を実施した。(5月実施) ・図書館のシラバス参考書コーナーを整理・補充し、最新のものと置き換え充実を図った。(適宜)	・恒常的に教育の質の向上と改善を図る。	・学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図る。 ・授業参観を続けて実施するとともに、公開授業に発展する様に検討を始める。 ・モデルコアカリキュラムの導入を検討する。			教務部 学年主任団等 図書館情報センター

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
の 向 上 及 び 改 善 の た め の シ ス テ ム	⑦ 企業人材を活用した教育体制を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad/iPhone向けアプリケーション開発入門」の講習会を学生向けと同時に公開講座として一般市民向けに開催する。 ・行政、産業支援機関等との連携による「液晶関連・EV関連の人材育成事業」の企画・立案・実施を行い、地元企業と連携した地域ニーズ対応共同教育や企業人材を活用した実践的技術者育成のための教育体制を推進する。 ・テクノセンター特任の教育コーディネータ採用により、企業人材を活用した最先端技術の講演・講義などを実施し、特に専門科目における教育内容のUPDATEと刷新を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き企業人材を活用した共同教育を実施する。 			地域共同テクノセンター 各学科
	⑧ 理工系大学との間での連携を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高専一長岡技科大連携教育研究助成、豊橋技科大の高専連携教育研究プロジェクト等への応募を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の集中講義等の聴講について検討した。学外教育施設等における学習等に関する規則に従って判断する。 ・第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行った。 ・豊橋技科大および長岡技術科大等の理工系大学との共同研究を行った。 ・豊橋技科大および長岡技術科大との連携を行い、講師を招き、学科学生に対して講演および研究室交流を行った。(1月に長岡、豊橋と各1回実施) ・島大大学院理工学研究科より講師を招き、本科4年生に1時間程度の授業を実施した。 ・鳥取環境大、鳥取短大を含む鳥取県建築交流会(コンペ形式)に参加した。(10月実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き理工系大学との間での連携を推進する。 			教務部 各学科

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
⑨ e-ラーニングの取り組みを 充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> データのデジタルコンテンツ化・クライアント側のアプリケーションの開発を行う。 後期からの専攻科生産システム工学専攻特別実験およびデジタル信号処理においてMATLAB/Simulinkを活用する。 「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用した教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生各教室の掲示板にe-ラーニング利用のポスターを掲示し、担任からも説明した。(4月) 到達度試験対策のためのe-ラーニング活用をチラシ等で促進した。(10月) 一般科目 e-ラーニングは、CALL教室設置でより充実したものになった。(12月設置) Moodleを導入し運用準備を行った。 材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた。 校内無線LAN化へ対応するため、仮想サーバの構築を行った。 Androidアプリケーションの開発を行った。 6/13に大阪大学中之島センターで開催されたデジタル・ナレッジ特別セミナー「iPadを教育にどう使う?」において、「iPadを活用した資格試験対策と教材内製化事例」と題して基調講演を行った。 電子回路CAD・シミュレーションソフトおよびMATLAB/Simulinkを活用した教育を実施した。(後期) 後期からの専攻科生産システム工学専攻特別実験およびデジタル信号処理においてMATLAB/Simulinkを活用した。(後期) 「次世代ICT教育用e-ラーニングシステム」を活用した教育を実施した。(前期) 情報科学I、生化学基礎演習、情報工学などの講義中に化学構造と分子モデリング等のシミュレーションソフトの活用によって、物質の構造の理解を深めた。 e-ラーニングによるSPI教材を用いた就職支援を行った。(4、1～3月) e-ラーニング教材を学生に周知し、利用を促した。(その都度実施) 一般科目 e-ラーニングの内容を充実させた。(その都度実施) クラウド上で学習できるe-ラーニングコンテンツの活用を促進した。(学習到達度試験対策として数学科、理科・物理の関連サイトについて) 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続きe-ラーニングを活用した教育を実施し、効果を把握する。 			<ul style="list-style-type: none"> 教務部 図書館情報センター 各学科
① メンタルヘルスを含めた学生 支援・生活支援の充実のための 講習会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> カウンセラーを増員し、カウンセリングの回数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「発達障がいのある学生への理解と支援」という講演会を実施した。(9月12日実施) 「学生の自己破壊的な傾向をいかに理解し、くい止めるかー臨床心理学の立場からー」という講演会を実施した。(9月13日実施) 外部カウンセラーを2人にし、1週間に2回はカウンセリングを実施できた。これにより、より多くの学生をメンタル面でサポートできた。 校内の学生相談員が毎日相談を受け付けている。 1年生のUPI検査の結果をもとに、カウンセラーが抽出して面談を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 恒常的に学生支援の向上・改善を図る。 女子寮生増加に対する対策について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの集団担任制を推進し、担任力の強化・充実を図る。 教職員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を実施する。 特別支援教育士をめざす教員の支援をする。 顕著な発達障がい等のある学生を支援するために移行支援会議を設置し運営する。 			<ul style="list-style-type: none"> 教務部 学生部 学年主任団等 学生相談室

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
(5) 学生支援・生活支援等	<p>② 図書館の充実や寄宿舎の改修など利用実態の分析を踏まえ計画的な整備を図る。</p> <p>・図書館情報センター改修計画の概算要求を行う。 ・寄宿舎の基幹設備の老朽化状況を調査し、整備計画を立案する。整備計画に基づく、営繕工事の要求を計画的に行う。</p>	<p>・寄宿舎の有効利用計画および生活支援整備の年次計画を検討した。(その都度実施中) * 男子寮の不法侵入防止対策として、玄関扉への電気錠の設置および廊下等の照明の感センサ化工事を実施した。(3月実施予定) * 平成25年度女子寮生増加に対して、2人部屋を3人部屋として利用できるよう整備を行った。(3月実施予定) * 平成25年度女子留学生の受け入れに対して、インターネット接続等の整備を行った。(3月実施予定) * 女子寮生増加に対する抜本的な対策は平成25年度に検討する。 ・生活支援整備のための営繕工事等の予算要求を行った。 * 営繕工事 ① 寄宿舎各棟の居室等の断熱建具改修(二重サッシ取り付け) ② 寮食堂および寮管理棟の屋上遮熱塗装改修 ③ 寄宿舎洗濯場改修 * その他 ① 学寮不法侵入防止用防犯カメラシステム ② 寄宿舎管理棟事務室改修 ③ 学生寮浴室ボイラーエコキュート化 ④ 新南寮居室壁面塗り替え ・平成25年度事業として図書館耐震改修が採用された。 ・蔵書整理のための基礎的調査と準備を行った。 ・図書館情報センター改修の概算要求を行った。 ・寄宿舎に関して以下の営繕工事を要求した。 ・寄宿舎の給排水設備の老朽化状況を調査し(4月)、緊急性のある個所の修繕を行った。(1月実施済) ・整備計画に基づく、営繕工事の要求を計画的に行った。</p>		<p>・緊急事項として、寄宿舎における女子寮生の増加対応策を練る。 ・学生及び教職員の憩いとの交流の場として、また学生が自発的に学習に取り組める場としてのコミュニティプラザや閲覧室を実現する。</p>			<p>運営会議 寮務部 図書館情報センター</p>
	<p>③ 各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。</p>	<p>・電子掲示板の利用、放送、教室掲示で情報提供を行った。</p>		<p>・引き続き各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供を行う。</p>			<p>学生部</p>
	<p>④ 企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。</p>	<p>・合同企業説明会、大学・大学院説明会、進路セミナーを開催し情報を提供する。</p> <p>・求人情報データベースの充実を図った。(12月実施) ・企業フェア、企業見学会を実施した。(2月実施) ・大学説明会、大学院説明会を実施した。(4月、2月、3月実施) ・進路セミナーを実施した。(2月実施) ・1～3年生を対象にブレインターンシップを振興協会の協力の下実施した。 ・1～3年生のHRの時間を活用し、高専生としての自覚、就労意欲、国際的な感覚、就職・進学の実態などの特別講演を行った。 ・編入学してきた学生に対して、ブレインターンシップへの参加を促し、早期の就職支援を行った。 ・地元就職を希望する学生のために、地域の商工会議所と打ち合わせを行い、企業説明会に、地域ブースと振興協会のブースを設ける企画を行った。 ・専門学科の求人票以外の業界を考えている学生に対して、ハローワークと連携し、求人情報の提供を行った。</p>		<p>・本校主催の企業・大学説明会及び保護者説明会等を実施する。 ・本年度夏季に、地元企業を中心としたオープンファクトリーを実施する。</p>			<p>キャリア支援室</p>
	<p>・全国高専体育大会および中国地区高専ロボコン開会を主管校として開催する。</p>	<p>・全国高専体育大会および中国地区高専ロボコン開会を主管校として開催した。</p>					<p>学生部</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画		平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
(6) 教育環境の整備・活用	① 施設・設備の点検・評価を行い施設マネジメントの充実を図る。	・施設パトロールを実施し、要求部分・危険部分等の確認、使用状況、管理状況等の総合的な調査を行う。 ・キャンパスマスタープランに基づく長期的な視点に立った計画的な施設管理を行う。	・施設パトロールを実施し、要求部分・危険部分等の確認、使用状況、管理状況等の総合的な調査を行った。(9月) ・コスト縮減等を考慮し、整備計画の見直しを検討し、見直しを行った。(その都度実施中) ・キャンパスマスタープランに基づく長期的な視点に立った計画的な施設管理を行っている。(その都度実施中)	耐震基準を満たす図書館の改修など施設・設備の整備が引き続き必要である	・キャンパスマスタープランに基づく長期的な視点に立った計画的な施設管理を行う。			運営会議 インフラ整備委員会
	② 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。	・高効率照明、空調機の導入を積極的に行い、CO2量の低減に努めるとともに、節水型機器、自動水栓の導入を推進する。 ・教職員に啓蒙を図り、更なる節電を推進する。	・学科長会議を通して全教職員に対して月別のCO2排出量および削減目標を周知して更なる節電を働きかけている。(6~12月実施済) ・高効率照明、空調機の導入を積極的に行い、CO2量の低減に努めている。(実施中) ・環境マネジメント委員会より教職員に啓蒙を図り、更なる節電を推進した。(6月) ・学生の利用し易さも考慮し、分析機器を再配置したため予算が逼迫した。実験器具は補充程度に止めた。 ・補正予算により、一部の分析機類の更新を図った。 ・平成23年に整備された先端材料試験設備を用いた、創造実験演習を実施した。(4~9月) ・営繕要求に伴いコンクリート分析室の空調機を整備した。(2月) ・ものづくりセンターの断熱建具改修実施(9月施工済) ・施設パトロールを実施し、要求部分・危険部分等の確認、使用状況、管理状況等の総合的な調査を行った。(9月) ・校舎他断熱建具改修(9月施工済) ・重油地下タンク改修(3月施工)		・図書館情報センターの耐震を含めた大改修を行う。 ・平成24年度に作成した施設整備マスタープランを基に見直しを図り、教育研究設備の整備を行う。また、整備計画に基づく営繕事業の要求を行う。 ・高効率照明、空調機の導入を積極的に行いCO2量の低減に努めるとともに、節水型機器、自動水洗の導入を推進する。			運営会議 安全衛生委員会 各学科
	③施設マネジメントを充実し、施設・設備のメンテナンスを的確に実施する。	・平成23年度に作成した設備整備マスタープランを基に見直しを図り、教育研究設備の整備を行う。 ・整備計画に基づく、営繕事業の要求を行う。	・整備計画に基づく、営繕事業の要求を行った。 ・部屋等の有効利用の検討を行った。(実施中)		・設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の整備・充実を図る。 ・各室の稼働状況を確認して部屋の有効利用等を検討する			運営会議 環境マネジメント委員会
① 全国規模のシーズ発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに獲得に向けた取り組みを実施する。	・ブレ科研費等の教育研究活性化経費の配分を運営会議で決定する。 ・「第5回中国地区高専テクノマーケット」の企画・運営を行うと共に、米子高専の産学官連携成功事例の発表やシーズ展示・動展示などを実施する。	・ブレ科研費等の教育研究活性化経費の配分を運営会議で決定した。 ・科研費申請者に対しピアレビューを行った。 ・「第10回全国高専テクノフォーラム」へ参加し、研究成果・技術シーズの発表とパネル展示やシーズ展示を行った。(8月実施済) ・「第5回中国地区高専テクノマーケット」の企画・運営を行い、米子高専の産学官連携成功事例の発表やシーズ展示・動展示を実施した。(12月実施済)	・本校における産学官連携活動や地域企業との研究開発活動(共同研究、受託研究、技術相談等)は比較的活発であり、技術開発分野での研究活動は充実している。また、学術研究に関しては、昨年度は何人かの教員と学生が学会賞等を受賞した。ただ、科研費採択への取り組みが十分とは言えない。	・科学研究費補助金等のインセンティブ制度を充実する。 ・産学連携コーディネータ等を活用し、科研費申請書のピアレビューなど各種補助金申請のサポート業務を行う。			運営会議 地域共同テクノセンター	

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
2・研究に関する事項	<p>② 共同研究、受託研究への取り組みを促進するとともに、これらの成果を公表する。</p>	<p>・テクノセンター特任のコーディネータ採用により、米子高専振興協力会会員企業の個別訪問を実施し、会員の増強と、シーズ情報発信を継続すると共にシーズとニーズのマッチングチャンネルの拡大・強化を図る。 ・テクノセンター鳥取オフィスの発足により、東・中部地区の会員増強とシーズ・ニーズのマッチングチャンネルの拡大・強化を図る。 ・「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、拡大を図る。 ・中国地区の大学・高専によるコンソーシアムを利用した情報発信を行い、技術シーズと企業ニーズのマッチングシステムを活用する。</p>	<p>・企業等との共同研究活動と学術研究のバランスを考慮しつつ、研究活動を進めるとともに、学生の研究発表活動の支援にも努める。とくに、科学研究費の申請件数増と採択率向上策を検討・実施する。</p>	<p>・引き続き共同研究、受託研究への取り組みを促進するとともに、地域共同教育を推進する。 ・テクノセンター特任のコーディネータ採用により、米子高専振興協力会との一層の連携強化と、シーズとニーズのマッチングチャンネルの拡大を図る(企業ニーズを卒業研究テーマとして取り込むことなど)。</p>			地域共同テクノセンター
	<p>③ 広域連携の推進と研究成果を集約する体制を構築する。</p>	<p>・キャリア支援室の講習会(10月)や専攻科の「知的財産権特論」(9月、2月)を充当する形で知的財産セミナーを開催した。 ・特許出願申請は2件あったが、そのうち1件が地元企業との共同出願であった。(6月) ・中国地区テクノセンター長会議(6月・12月)、JST全国イノベーションCDフォーラム(12月)などを通じてコーディネータの人脈作りと連携のありかたについて協議した。</p>					<p>・知的財産セミナー等(特許検索・知的財産権に関する事項)を開催する。 ・各種のシーズ・ニーズのマッチングシステムを活用する。また、中国地区経産局や鳥取県産業振興機構(発明協会)コーディネータ等との連携により、知財シーズの掘り起こしを行う。</p>
<p>① 地域共同テクノセンターなどの施設や設備の拡充計画を策定する。</p>	<p>・学内措置による同等施設のインキュベーション機能、PR機能、リエゾン機能、など共同研究実施施設としての具体的な活用を図る。 ・3D測定器のレトロフィットと共にリパスエンジニアリングシステム活用の具体的計画を立案し、学内における実践的技術者教育への利用を推進することで設備・機器の稼働率を向上させる。 ・米子高専の教育研究を支援する企業組織「米子高専振興協力会(会員企業数111社)」と連携し、地域に根ざしたものづくり技術の継承を図り地域共同研究を推進する。</p>	<p>・企業との共同研究を行う教員にインキュベーションルームを貸与し、研究推進の便宜を図った。(適宜実施) ・3D測定器等の設備をホームページで紹介したところ、卒業研究での利用があり、稼働率が向上した。(適宜実施) ・「米子高専・振興協力会総会(6月)／交流会(2月)」や「中国地区高専テクノマーケット(12月)」等において、成功事例やそのノウハウについて発表し、共同研究を推進した。</p>	<p>・引き続き地域連携活動や国際交流活動を実施するとともに、鳥取県西部地区唯一の工科系高等教育機関としての地域ニーズに応えられるよう活動の見直し・改善を行う。</p>	<p>・地域の産業構造や経済状況が入試に大きく影響する中で、理科離れ対策、産学官連携活動、卒業生ネットワークの構築などの地域貢献活動を不断に推進する。</p>			地域共同テクノセンター

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
② 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などを効果的に広報する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「産官学連携のスズメ2012」・「米子高専技術シーズ集2012」を発行し教員個々の「研究分野・相談分野」を紹介するとともに、教員研究分野カテゴリー集を掲載することで、学科横断組織を活用した分野別産官学連携組織の活用を推進する。 ・「米子高専・振興協会総会／講演会」や「中国地区高専テクノマーケット」等において、成功事例発表やそのノウハウについての講演を実施し普遍化を図る。 ・HPや新聞、テレビ、ラジオ等のメディアを介し、研究成果の情報発信と産学連携・地域貢献活動に関する広報活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「産官学連携のスズメ2012」を発行し教員の「研究分野・相談分野」の紹介と「産官学連携の取り組みと制度」を広く紹介した。(6月実施済) ・「米子高専技術シーズ集2012」を発行し教員個々の「研究分野・相談分野」を紹介するとともに、教員研究分野カテゴリー集を掲載した。(6月実施済) 学科横断型の活動に関しては、共同研究において複数学科の教員が分担する事例が1件あった。 ・「米子高専・振興協会総会(6月)／交流会(2月)」や「中国地区高専テクノマーケット(12月)」等において、成功事例やそのノウハウについて発表した。 ・ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介し、研究成果の情報発信と産学連携・地域貢献活動に関する広報活動を推進した。(適宜実施) 		<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究・受託研究を積極的に推進するとともに、その成果などを効果的に広報する。 ・米子高専産官学連携パンフレットや「米子高専技術シーズ集2013」の発行、「米子高専振興協会総会/講演会」や「とっとり産業フェスティバル」の実施等。 			地域共同テクノセンター
③ 小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するとともに、取組事例をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学生、社会人向けに「公開講座」を開催し、同時にアンケート調査を実施することで満足度の向上と講座内容の改善を図る。 ・小学生およびPTA向けに各種「出前講座」の開催とアンケート調査を実施することで、満足度の向上とニーズ把握を推進する。 ・外部団体との連携による「ジョイント講座」を実施し、同時にアンケート調査を実施することで満足度の向上とニーズ把握を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「エンジョイ科学館」など、各種の小・中学生～社会人向け公開講座を開催し、同時にアンケート調査を実施することで満足度の向上と講座内容の改善を図った。(適宜実施) ・小・中学生を中心に各種の出前講座を開催し、同時にアンケート調査を実施することで、満足度の向上とニーズ把握を図った。(適宜実施) ・米子市教育文化事業団などの外部団体との連携によるジョイント講座を実施し、同時にアンケート調査を実施することで満足度の向上とニーズ把握を行った。(適宜実施) 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き小・中学校に対する理科教育支援の機会の増大に努める。 			地域共同テクノセンター
④ 満足度調査において公開講座の参加者から評価されるように、内容を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座・出前講座・ジョイント講座等のアンケート調査を随時実施し、企画満足度の向上と講座内容の改善を図る。 ・連携機関(教育機関、NPO、行政・産業支援機関)等との連携調整の強化により、「液晶人材育成事業」、「ものづくり担い手育成事業」および「EV人材育成カリキュラム講座」に特化した効果的な企画運営を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座・出前講座・ジョイント講座等のアンケート調査を随時実施したところ、平均96%の満足度が得られた。(前期実績) 実施状況は教員会議(4月・10月)で報告し、内容の改善に役立てた。 ・鳥取県が実施している「EV人材育成カリキュラム開発事業」の評価委員を務め、改善点を提案した。(10月実施済、3月開催予定) また、カリキュラムの改訂作業の一部を建築学科が受託した。(8月実施済) 		<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座・出前講座・ジョイント講座等のアンケート調査を随時実施し、満足度と要望・ニーズ等を調査し、講座内容の改善を図る。 			地域共同テクノセンター

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
国際交流等に関する事項	⑤ 卒業生の動向を把握するとともに、卒業者のネットワーク作りとその活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各研究室の過去の卒業・修了生のリストおよび最新の同窓会名簿を基に動向調査を実施するとともに調査結果をまとめる。 OB・OGを招聘しての講演会を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> 米子高専卒業生ネットワーク(YNCT-net)ITポータル・サイトの企画・設計及び運用を開始する 			<ul style="list-style-type: none"> 国際交流 各学科
	⑥ 安全面への十分な配慮を払いつつ、学生の国際交流体験や教員の国際交流を促進するための施策を検討する。 外国の大学等の教育研究機関との国際交流事業の協定締結を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校の国際化及びグローバル人材教育の推進のため、以下のとおり行った。 国際交流協定締結、海外工場見学旅行、海外研修旅行等の実現に向けた南ソウル大学校学校交流(SV, 4/28-5/4韓国) 環日本海交流を推進するため北東アジア地域大学教授協議会へ参加(4/3日本) JENESYS(JICE)プログラム受入によるインド学生との学校交流(SS, 6/14日本) 南ソウル大学校学生・教員との学校交流(SS, 6/28-29日本)を図り、国際交流協定を締結(3/20付)した。 テマセク・ポリテクニク技術英語研修への学生派遣(9/8-23シンガポール) Asia Science Camp2012(JST)への学生派遣(8/24-9/1イスラエル) 環日本海拠点都市大学生交流事業への学生派遣(9/4-7韓国) 鳥取県・バーモント州青少年交流事業への学生派遣(10/18-29米国) 中国地区高専・海外協定校 合同研究発表会 in Dalianへの学生派遣(11/14-16中国) ISTS2012への学生・教員派遣(11/21-24タイ) 留学生の本科3年生(1名)、本科4年生(3名)とともに日本人学生(3年1名、4年3名)が津山高専で行われた「留学生シンポジウム」に参加した。 第2外国語としてのドイツ語の扱いについて教務部内で検討中である。 海外インターンシップについては、近隣諸国の情勢が安定しないため、今年度は検討を行わなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 英語教育の強化・改善を図る。 ○3年生におけるTOEIC全員受験を実施するとともに、チームティーチング授業やすでに導入したCALL教室の積極的活用等を通して語学教育の充実を図る。 ○恒常的に1～3年生で英単語コンテストを実施し、語彙力の増強を図る。 ○海外研修・国際交流活動の推進を通して、語学学習のモチベーション向上を図る。 ・地元自治体が行う国際交流プログラムへの参画 ・大学・高専連携による国際交流プログラムへの参画 ・JICEなど国際協力・連携組織が行う国際交流プログラムへの参画 ・昨年度に交流協定を締結した南ソウル大学との学生の交流・交換プログラムを検討する。 ・他の海外の大学等との協定締結を検討する。 ・種々の国際交流活動とその支援策の充実を図る。 ・海外インターンシップについて検討を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 国際交流 教務部 キャリア支援室 各学科
	⑦ 国費留学生等の受入増に努めるとともに、留学生を取り巻く環境の整備充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生研修旅行を実施した。(3月実施) 留学生の卒業生ネットワークの運用については検討中、ネットワークを利用して、留学生OB講師を選出した。(1月) 留学生の日本語教育に対する要望などを調査する。 留学生控室は改善要望に応じて整備・充実した。(適宜) 留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した。 留学生寄宿舎について、老朽化した給排水設備、建具の修繕を行った。(12月実施済) 		<ul style="list-style-type: none"> 留学生等の受入増に努めるとともに、留学生を取り巻く環境の整備充実を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 教務部 寮務部

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
⑧留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて毎年度提供する。	・留学生OB講師による講演会を実施する。	・留学生OB講師による講演会を実施した。(3月実施)		・引き続き留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて提供する。			教務部
①教職員の適正な服務管理・健康管理を推進する。	・年間を通して、専門学科分野ごとの安全管理講習会を開催する。 ・米子高専における「心の健康づくり計画」に基づく年次目標達成のための取組みとして以下を実施し、活動の評価を行う。 1.平成23年度管理職員研修に引き続き、教職員全員に対する教育研修の実施 2.管理監督者による教職員からの意見聴取(ストレス要因の把握)を随時実施し、問題の早期発見・解決に努める。	・AED等の講習会を開催し、知識・技術の習得を図った。(1月) ・年間を通して、専門学科分野に関する安全管理講習会を開催した。(6月～12月) ・米子高専における「心の健康づくり計画」に基づく年次目標達成のための取組みとして以下を実施した。 * 米子高専「心の健康づくり計画」におけるメンタルヘルスの推進体制を作り教職員へ周知した。 * Webによるストレス度チェック(中央労働災害防止協会のHP(職業性ストレス簡易評価ページ))を実施した。 * 管理監督者による教職員からの意見聴取(ストレス要因の把握)を随時実施した。 * 心の健康づくり活動の評価を実施した。 ・教職員から適宜ヒアリング等を行い、問題の早期発見・解決に努めた。(通年実施済)	・「学生がいきいきとした学校」、「地域社会に信頼される学校」、「教職員が働きがいのある学校」、を旨とした学校運営を図る。	・「心の健康づくり計画」に基づく年次目標達成のための取組みとして、教職員に対する教育研修の実施、管理監督者による教職員からの意見聴取を随時実施、心の健康づくり活動の評価等を行う。			安全衛生委員会
②各種危機管理体制の点検・整備を行う。	・迅速かつ的確な危機管理に対応するため、危機管理体制の充実を図る。	・津波を想定した避難訓練を実施した。 ・島根原発事故を想定した検討を開始した。		・迅速かつ的確な危機管理に対応するため、危機管理体制の充実を図る。			危機管理委員会
③法人としてのスケールメリットを生かし、事務の効率化・合理化を図るため、共通システムの効率的な運用方法について検討を行うとともに、事務マニュアルの充実を図る。	・情報セキュリティを踏まえた共通システムの運用を検討し、運用マニュアルの充実を図る。			・内部監査、監事監査、高専相互監査等の監査結果について、検討を行い、改善を図る。			事務部
④ 事務職員や技術職員の能力の向上のため計画的に研修に参加させる。	・機構及び大学法人・高専等主催の研修・各種講習会に参加させるとともに、企業が実施する研修への参加について検討する。	・機構主催及び大学法人・高専等主催の研修に積極的に参加させるとともに、企業が実施するセミナー及び人事院が企画した研修に参加させた。 ・支援センターとして、校内研修及び初任者研修を実施した。		・引き続き機構主催及び大学法人・高専等主催の研修に積極的に参加させるとともに、企業が実施するセミナー及び人事院が企画した研修に参加させる。			運営会議 事務部 技術教育支援センター
⑤ 事務職員及び技術職員に関する人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。	・全国高専の技術職員の配置と人事交流の現状を調査するとともに、機能的な人事交流の在り方に関して検討する。	・全国高専での人事交流について情報収集した。また、中国地区の高専間での人事交流については、25年度より技術長で検討を始めることになった。		・事務職員及び技術職員に関する人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。			事務部 技術教育支援センター
⑥ 「第2次情報セキュリティ基本計画」等の政府方針を踏まえ、適切な情報セキュリティ対策を推進する。	・教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行う。 ・無線LANの運用方法および利用方法について検討し、実際の運用を行う。	・情報ネットワーク機器の更新および認証サーバの導入に合わせ、校内システムおよび運用の見直しを行った。各種サーバには認証サーバを用いた個人認証を導入し、学生と教職員のネットワークを分離するなどのセキュリティ対策を行った。		・政府方針を踏まえ、適切な情報セキュリティ対策を推進する。 ・教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行う。			企画部 情報セキュリティ委員会 事務部

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成24年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	次年度 の予定	主たる 担当部署
<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎事業年度につき一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 ・中期計画の達成に必要な資源配分を、戦略的かつ計画的に行う。 ・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。 ・随意契約見直し計画の取組状況を集約する。 <p>財務諸表等の精度を向上させ、会計監査人による全国高専のチェックを踏まえ本校にも反映し、高専間相互監査等のチェック体制を推進する。</p>	<p>・中期計画の達成に必要な資源配分を、戦略的かつ計画的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初予算配分において、一般管理費を3%効率化対象とした。(5月) ・教員会議資料の電子化(その都度実施中)→前年実績比 102千円削減 ・ゆうメールの利用促進(その都度実施中)→前年実績比 550千円削減 ・官報の購入中止(4月)→前年実績比 44千円削減 ・環境マネジメント委員会より教職員に啓蒙を図り、更なる節電を推進した。(6月) ・仕様策定時にデモンストレーションを実施するなど、複数メーカーの事前調査に取り組んでいる。 ・応札者が少数と想定される案件において、入札参加資格を中国地区より全国へ拡大する取組を行った。(その都度実施中) ・仕様策定委員会において、複数メーカーが参入可能な仕様内容となるよう働きかけている。(その都度実施中) 	<p>・引き続き学校運営の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を前提として、当初予算配分を行う。 ・学校の配分方針等に基づき、中期計画の達成に必要な資源配分を戦略的かつ計画的に行うための予算編成・配分方針を策定し、重点的に予算配分を行う。 ・政府調達の日報公告をまとめて公告で行うことにより経費の削減を図る。 ・随意契約見直し計画に基づき、原則、一般競争契約に付するものとし、競争性、透明性の確保を図る。 			<p>運営会議 予算委員会 財務部門</p>
<p>III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノセンター特任の産学官連携コーディネータを西部・東部の各拠点に配置することにより、地域の企業とのシーズとニーズのマッチングチャンネルの拡大・強化を図り、共同研究、受託研究、奨学寄附金などの外部資金獲得に積極的に取り組む。 ・産学官連携コーディネータによる公的資金獲得に向けたセミナーなどを実施することで、獲得ノウハウなどの普遍化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノセンター特任の産学官連携コーディネータを西部・東部の各拠点に配置し、地域の企業とのシーズとニーズのマッチングチャンネルの拡大・強化を図り、共同研究、受託研究、奨学寄附金などの外部資金獲得に積極的に取り組んだ。(適宜実施) その結果、総額で平成23年度を上回る外部資金を獲得した。 ・産学連携コーディネータによる「知って得する申請書の書き方」研修会を開催し(9月実施済)、その後同コーディネータが科研費申請書のピアレビューを分担した。(10月実施済) 	<p>・引き続き外部資金の導入と適切な予算執行を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携コーディネータを西部・東部の各拠点に配置し、地域の企業とのシーズとニーズのマッチングチャンネルの拡大・強化を図り、共同研究、受託研究、奨学寄附金などの外部資金獲得に積極的に取り組む。 ・コーディネータ等による補助金申請に係る各種サポート業務を行い、獲得ノウハウなどの普遍化を図る。 			<p>運営会議 地域共同テクノセンター</p>
<p>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 教育研究の推進や学生の福利厚生等の改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。</p>	<p>「概算要求年次計画表」に定めた事項を基本に、高専機構本部及び香川地区事務部施設課と検討・協議を重ねた事項について概算要求を行い、安全・安心な教育研究環境を確保するため改善を図る。</p>						<p>財務部門</p>
<p>2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。</p>	<p>・ビジネスマナー講座など、本校独自の研修を新任の教職員に対し実施する。</p>						<p>運営会議</p>